

2017年度 JSFF 活動報告

概要

保険制度の周知

JSFF のイベントは JHF の保険を利用して開催されているが、それがイベントの実行委員長に伝わっていない、もしくは曖昧な知識のまま運用されていることが多かった。万が一のことがあつてから保険適用外ということが判明しては遅い。そのため保険制度の周知徹底とチェックを実施した。

大会参加者増に向けた補助金の見直し

昨年度の大会参加者減少を鑑みて、遠征補助金の適用範囲を見直し、学連公認大会においても適用可能とした。これにより、すべての大会において参加者が増え、人数不足による不成立はなくなった。2018年3月の学連総会で、来年度から遠征補助金はさらに増額することを決定した。今後も選手が大会に出るための負担を少しでも減らすための活動を行う。

また、JPA エリアの学生が JHF に登録して学生の大会に出る際、登録補助を行っているが、今まで無条件であったのを条件付きに変更し、地区理事が一括申請にすることで知名度の向上と手続きの簡略化を図った。先述の通り保険関連のチェックを強化したので、JPA の学生は JHF 登録をしていないと JSFF のイベントには参加できないことを徹底したので、こちらも申請数は昨年度と比較して増加した。

総会のオンライン化

JSFF では総会を毎年度末に実施しているが、今年度から Skype を用いてオンライン化した。これにより、今までの決算で多くを占めていた総会交通費が大幅に削減でき、浮いたお金を遠征補助等に回すことが可能となった。オンライン総会は JSFF 初の試みとあつて、通信テストを兼ねたプレ総会も事前に実施している。それでも総会中に回線が途切れる等のトラブルが起きたため、来年度は映像の簡略化や Google ドキュメント等を利用した板書共有などを考えている。

JSFF 会費の適正化

昨年度の会計では、予算と決算において大幅な乖離が見られ、原因として無計画な収入計画があげられた。そこで今年は、去年生まれた余裕も生かし、利用した分に合わせて徴収額を決定するようにした。また、去年余らせてしまった予算を長期的な視点でどのように利用するか(年間の優勝旗購入や大会への協賛品として分配等)を検討中である。

このため、今期は JPA との交渉は一切進展がなかった。今後 JPA 学生フライヤーの JHF 登録補助制度の利用状況を鑑みて、JPA との連携も図っていききたい。

2017 年度事業

1) 学連登録（前年比）

- ア 学連登録数 356 名 (+15 名)
- イ 6 地区 27 団体 (±0), 47 大学 (-2)
- ウ HG : 203 名 (+5), PG : 151 名 (+8)

2) 競技会の開催

ア HG

- 1 nasa STUDENT CUP 2017
2017 年 8 月 29 日～8 月 31 日
茨城県足尾山 選手 31 名参加 (-9)
- 2 2017 年度全日本学生龍門大会
2018 年 2 月 19 日～22 日
和歌山県龍門山 選手 29 名参加 (+1)
- 3 2017 年度 HG 学生選手権 in 耳納
2018 年 3 月 8 日～11 日
福岡県耳納山 選手 46 名参加 (+19)

4 HG 新人戦

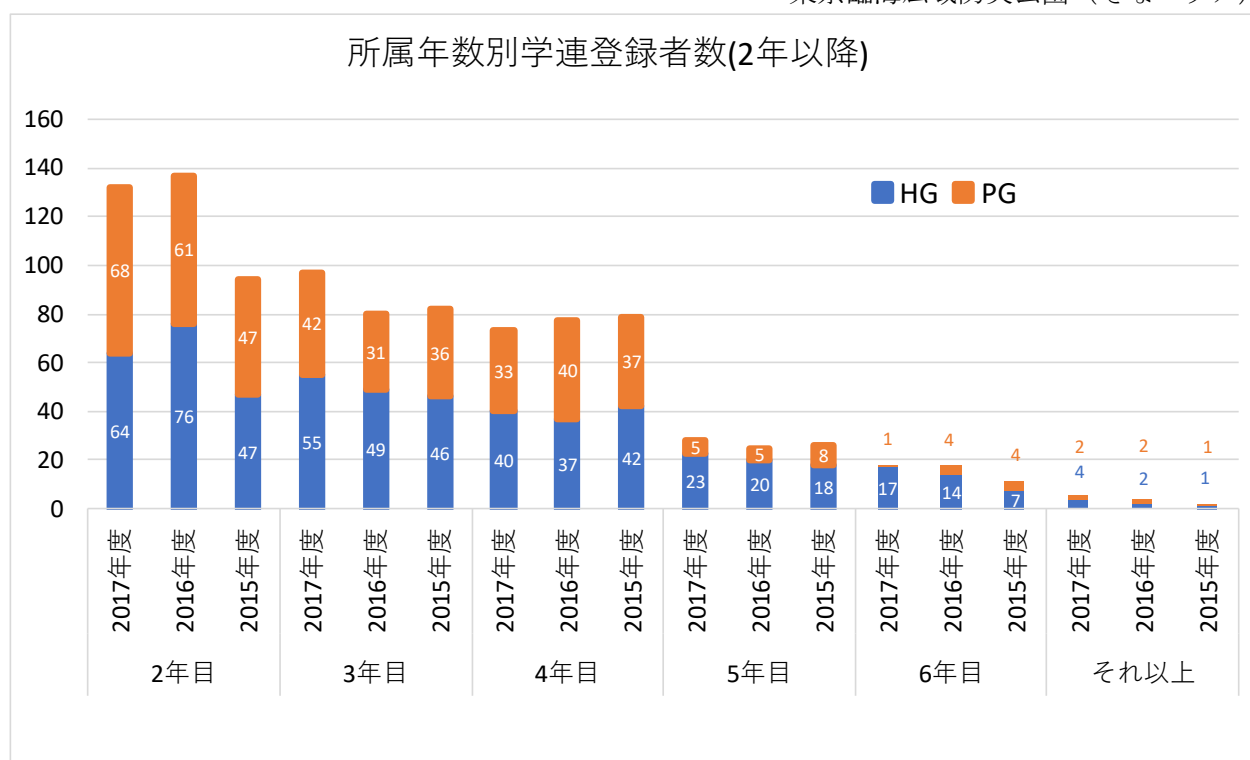
2018 年 3 月 24 日, 3 月 25 日
滋賀県荒神山 20 名参加 (-5)

イ PG

- 1 尾神岳 Paraglider Student Cup 2017
2017 年 8 月 22 日～8 月 24 日
新潟県尾神岳 選手 24 名参加 (+10)
 - 2 新人戦 2017
2017 年 11 月 11 日, 11 月 12 日
山形県十分一山 選手 16 名参加 (-9)
 - 3 2017 年度 PG 学生選手権 in 足尾
2018 年 2 月 26 日～3 月 1 日
茨城県足尾山 選手 23 名参加 (+2)
- 3) 合宿, 講習会等の開催 (地区学連含む)

ア HG/PG

- 1 東京都内 HG・PG 体験会
2017 年 4 月 7 日, 4 月 8 日
東京臨海広域防災公園 (そなエリア)



2 鳥取砂丘合宿

2017年9月5日～9月8日

鳥取県鳥取砂丘 105名参加 (+10)

3 安全講習会 (夏季冬季計2回)

2017年6月27日, 2018年1月9日

東京都東洋大学教室

イ HG

1 トーイング講習会

2018年3月24日, 3月25日

滋賀県荒神山

4) 草大会・その他

ア HG/PG

1 PINK CUP 2017

2017年10月28日, 10月29日

山形県十分一山 HG36名 (-1), PG28名
(-5) 参加

5) JHFに関する特記事項

ア 補助金 30万円支給

イ イベント補助

ウ JHF レポート執筆 (218～221号)

JPA や県連との交流・連携

JSFF は, JHF との連携は強いが, JPA との連携は出来ていない。また, 東京都連との関わりはあるものの, 他の県連などとの結びつきもないに等しい。社会人の方々から情報をいただき, それを生かすことが, 未熟な学連の更なる発展に繋がるはずであり, もっと推進すべきである。

競技人口の停滞・受け入れ態勢の減少

年々学連加盟人口は増えているが, 競技人口が伸び悩んでいる。学連では補助金などを通して大会出場の負担を減らし, また各サークル上級生がもっと競技の楽しさを伝え, 下級生が大会に興味を持ってもらえるよう働きかける必要がある。

また, PG3大会目がなかなか実現しないことや, HG 耳納大会が今後どうなるかわからないなど, 学生を受け入れてもらう環境が徐々に厳しい環境に置かれている。社会人への相談を積極的にするとともに, 学生も溢れるやる気を存分に出し, しっかりした大会運営・引継ぎを行って社会人にアピールしていく必要がある。

課題

学連 HP

HP メンテナンス系の知識が追い付かず, ずっと課題とされている改善及びメンテナンスが追い付いていない。今期末から Google ドライブを利用したデータ共有を開始したが, 対外的な部分はいまだ変わっておらず, 更新が必要である。また, HG と PG で分かれているリーグ HP の統一も必要である。

大会運営の連携不足

地方理事と大会実行委員長, JSFF 幹部で情報の共有が出来ているとは言い難い。もっとしっかりと連携をして, スムーズで負担の少ない効率的な大会運営を行う必要がある。その上で, 幹部に対し問題提起をしやすい環境作りをしていかなければならない。

2017年度 JSFF 理事長 堀 聡史 (日本大学)